

特定非営利活動法人 京都自死・自殺相談センター Sotto シンポジウム

自死・自殺に 本気で向きあう

2013年3月31日

キャンパスプラザ京都5階 第1講義室

13:30～16:30（13:00受付）

16:30～17:00（ボランティア募集説明会）



一人ひとりを大切にする支援とは

昨年 2012 年、14 年連続で 3 万人をこえていた自ら命を断った方の数が、はじめて 3 万人を下回りました。国や民間団体によるさまざまな施策が次第に広まりつつあります。私たちは、〈3 万人をこえた〉〈3 万人を下回った〉という社会問題としてだけでなく、自ら命を断った方、大切な人を亡くした方、そして、今まさに死にたい気持ちで苦悩している方、一人ひとりのことを大切に考えたいと思っています。

このシンポジウムでは、「一人ひとりの苦悩を大切にする支援」のあり方と可能性に焦点をあて、自死の苦悩を抱える方が必要とする支援とはなにか、具体的な課題をもとに考えます。これまで自死の苦悩に向き合ってきた法曹・行政・遺族支援の 3 つの領域で活躍する支援者とともに、ここ京都から、本気の議論を発信していきます。

パネリスト紹介

生越照幸



(自死遺族支援弁護団)

弁護士。1970 年生まれ。東北大学工学部卒業、同大学院国際文化研究科修了、「自殺実態白書 2008」製作コアメンバー、厚生労働省「職場におけるメンタルヘルス対策検討会」メンバー、一般社団法人自殺対策全国民間ネットワーク監事、自死遺族支援弁護団事務局長。2012 年よりライフルパートナー法律事務所を設立。大阪弁護士会所属。

片岡美佳



(京都府福祉・援護課)

1988 年大阪大学人間科学部卒業後、京都府庁に入庁。税務、広報、商工、企画関係部署などを経て、平成 24 年 4 月から京都府に新しく設置された自殺対策の専任担当として、苦しい人に寄り添い、支え、生きるための再チャレンジを支援する社会づくりを目指して奮闘中。目下の関心は民間と行政とのネットワークづくり。

金子久美子



(福島れんげの会)

福島県福島市在住。2004 年福島市でれんげの会を立ち上げ、2006 年より代表を務める。医科大学の救急センターの秘書として、働く中で、命の重さをより実感している。マイブーム「テレビドラマのまとめ見」。好きなこと「食べること・眠ること・気を許せる人と一緒にいること」。好きな食べ物「チョコレート」。好きな言葉「ほのぼの」。

吉田まどか



(カウンセリングスペース「リヴ」)

児童養護施設・母子通園施設などの勤務を経て 20 年前にリヴを立ち上げ、フリートークやワークショップ、カウンセリングなど子どもや女性の支援・幼児期から思春期までの教育相談も行う。合わせて、自身の体験から 2002 年より自死遺族支援を始める。現在では語りの会の他に自死遺児の遊びのワーク・遺族のカウンセリング・親子間の家族調整カウンセリングなど、行っている。臨床発達心理士・社会福祉士・大阪市教育相談員。

スケジュール

13:30	開会あいさつ 清水新二（特定非営利活動法人京都自死・自殺相談センター理事長）
13:40	【テーマ 1】“大切な人を亡くした”に本気で向きあう 休憩
15:05	【テーマ 2】“死にたい”に本気で向きあう
16:30	閉会
16:30	ボランティア説明会

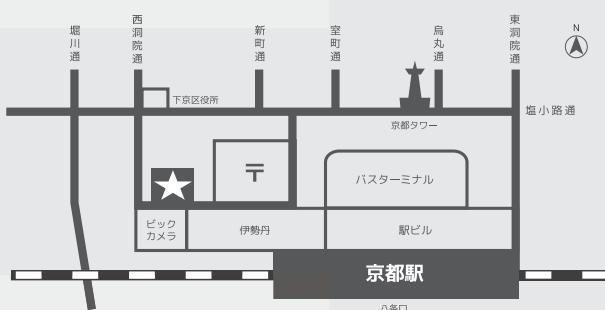
案内

平成 25 年度 第 4 期ボランティア募集

当日説明会をおこないます

交通アクセス

キャンパスプラザ京都（ビックカメラ前、JR 京都駅ビル駐車場西側）



京都自死・自殺相談センターの活動を支えてくれるボランティアを募集しています。当センターは自死にまつわる様々な苦悩を抱える方々を精神的に支援する団体です。自死念慮者への電話相談窓口、大切な人を自死で亡くした方への語りあう会の開催、一人でも多くの方への自死に関する情報を届ける発信を活動の柱としています。



お問い合わせ

特定非営利活動法人 京都自死・自殺相談センター事務局

〒600-8349 京都市下京区塙町 92 ☎ 075-365-1600 URL <http://www.kyoto-jsc.jp/>

このシンポジウムは京都府自殺対策事業補助金を受けて開催します。